

トラック労災、死傷者数は3年連続増

- 交通事故
- 墜落、転落
- 挟まれ、巻き込まれ
- 熱中症での死亡・死傷災害大幅増加

2019/05/23

厚生労働省は、2018年の労働災害発生状況を公表した。

陸上貨物運送事業の労災による死亡者数は前年を下回ったが、死傷者数は3年連続で前年を上回り、1年間の労働者1000人あたりに発生した死傷者数の割合を示す死傷年千人率も2年連続で前年を上回った。

18年は貨物自動車の輸送トンキロ数が前年同様に高い水準で推移しており、需要の増加もあって死傷災害が増加したと考えられる。

陸上貨物運送事業の労災による死亡者数は大幅に増加した前年より減少し、102人(25.5%減)となったが、休業4日以上の死傷者数は1万5818人(7.6%増)で3年連続の増加。

労働者死傷病報告による死傷者数が1万5000人を超えたのは08年以来の10年ぶり。年死傷年千人率は8.89(5.8%増)だった。

事故の型別をみると、死亡災害では「交通事故(道路)」が最も多く、横ばいであるものの全体の4割を占める。

近年増加している「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」などの荷役作業時に発生する災害は減少した。

死傷災害では「交通事故(道路)」は減少し、「墜落・転落」など荷役作業時の災害が増加。

また、猛暑の影響で熱中症による死亡災害、死傷災害が増加した。

なお、全業種で月別に見ると、1~3月および12月の降雪期に転倒災害が多く発生しており、北海道、東北、北陸および山陰地方の道県の県庁所在地の降雪量と転倒による死傷者数は、強い相関関係にある。

男女別に見ると、転倒災害による死傷者のうち25.7%が60歳以上の女性で、他の型の災害と比較してもとくに高齢の女性の転倒が休業4日以上の労働災害となる傾向がある。

なお、派遣労働者の労災状況のうち、陸上貨物運送業の死亡者数は1人、死傷者数は712人で派遣労働者の死傷者数全体の15.4%を占めていた。

18年4月~23年3月までの5年間を計画期間とする「第13次労働災害防止計画」では、全体で死亡災害15%以上、死傷災害5%以上の減少を目標とし、陸上貨物運送事業については死傷災害を死傷年千人率で5%以上減少、腰痛による死傷者数を22年までに死傷年千人率で5%以上減少を目指すとした。

道内外国人労働者の労災2倍以上

- 声を掛け合うこと
- 報告、連絡、相談の、「ほう・れん・そう」を徹底する

2019年06月03日 09時29分

去年、道内で労災の届け出があった外国人労働者は100人を超え、3年前の2倍以上に増えました。このうち技能実習生は54人と全体の半分近くを占めています。新たな在留資格を設けるなど外国人材の受け入れが拡大されたことに伴って今後、道内の外国人労働者は一段と増えると予想されています。北海道労働局は、機械の操作方法といった作業のマニュアルとは別に、外国人向けに声を掛け合うことや報告、連絡、相談の「ほう・れん・そう」を徹底することなど事故を防ぐポイントをまとめた冊子を作成し、注意を呼びかける。